

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【伊都振興局】重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】
～農業技術講習会果樹コース（かきの生理落果・品質の対策）の開催～

令和7年5月号

和歌山県農林水産部経営支援課

（農業革新支援センター）



掲載 HP へ

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1
1. 美味多収の温州みかんづくり研修会を開催！「匠の技 伝道師」	
II 那賀振興局	2-3
1. 紀の川市4Hクラブが総会を開催	
2. 那賀地方生活研究グループ連絡協議会が総会、研修会を開催	
3. クビアカツヤカミキリ産卵阻止ネット設置研修会を開催	
4. 紀の川アグリカレッジ修了式及び開講式が開催された	
III 伊都振興局	4
1. 重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】 ～農業技術講習会果樹コース（かきの生理落果・品質の対策）の開催～	
2. えんどう採種ほ場の現地状況調査	
IV 有田振興局	5-6
1. 令和7年度有田地方かんきつ類の着花調査を実施	
2. 令和7年度田んぼの学校（有田市立糸我小学校）がスタート	
3. 有田地方生活研究グループ連絡協議会総会・研修会を開催	
V 日高振興局	7-8
1. 日高果樹技術者協議会が令和7年産かんきつ類着花状況調査を実施	
2. 日高地方クビアカツヤカミキリ連絡会議を開催	
3. 日高地方花き連合会が花育活動を実施	
VI 西牟婁振興局	9
1. 上富田町都市と農村の交流事業実行委員会が「梅取り体験」を実施	
2. クビアカツヤカミキリ発生状況調査を実施	
VII 東牟婁振興局	10
1. 令和7年産かんきつ類の着花状況調査結果	
2. 古座川ゆず平井の里 第21回総会の開催	
VIII 農林大学校	11
1. 刈払機取扱作業安全衛生教育を実施	

IX 農林大学校就農支援センター

12-13

1. 令和7年度社会人課程および新規就農者実践研修がスタート
2. 令和7年度技術修得研修（第1班）開講
3. 令和7年度ウイークエンド農業塾農業入門コース（第1班）開講

X 経営支援課

14

1. 和歌山県4Hクラブ連絡協議会が令和7年度総会及び農村青少年技術交換大会を開催

I 海草振興局

1. 美味多収の温州みかんづくり研修会を開催！「匠の技 伝道師」

海草振興局では、年に3回「匠の技 伝道師」研修会を実施している。今回は5月16日、海南市下津町内の温州みかん園地において、橋詰 孝氏による栽培技術研修会を開催し、生産者13名の参加があった。

本研修会は、令和4年度から主要な作業時期別に開催しており、今回は本年2月にせん定研修会を行った園地において、花の着き方の確認と今後の管理について研修を実施した。はじめに、農業水産振興課の岩橋普及指導員から昨年の生育概況及び今年の開花状況について説明を行ったあと、橋詰氏から園地の樹を用いて説明が行われた。

橋詰氏からは、「旨いみかんのために、この時期開花で疲れた樹の栄養状態を良くして着果させることが大切。液肥を散布して新芽の緑化を5月中に完了させることが大事」との話があった。また、近隣にある参加者の園地へ移動し、樹の状況を確認しながら意見交換も行った。参加者からは、生育時期ごとの栄養素の効かせ方や肥料の種類、散布時期等で質問が寄せられ、活発な研修会となった。



園地での橋詰氏による説明

Ⅱ 那賀振興局

1. 紀の川市4Hクラブが総会を開催

5月9日、那賀振興局において紀の川市4Hクラブ（会長 宮村康平氏）令和7年度総会が開催され、会員12名が出席した。総会では、全ての議案が原案どおり承認されるとともに、役員改選が行われ、木村竜二氏が新会長に就任した。また、退会する2名の会員から、現会員へ挨拶と激励の言葉が述べられた。

総会終了後に情報交換会が行われ、クラブの今後の活動方針や農作業および販売に関する意見交換が活発に行われた。



総会の様子



退会する会員の挨拶

2. 那賀地方生活研究グループ連絡協議会が総会、研修会を開催

5月15日、那賀振興局において那賀地方生活研究グループ連絡協議会総会が開催され、会員17名が出席した。議案はすべて原案どおり可決され、役員改選では紀の川市の坂口富子氏が会長に再選された。

総会後の研修会では、農業水産振興課の遠田技師が「クビアカツヤカミキリについて注意喚起とお願い」と題した講演を行った。動画や標本を使用してクビアカツヤカミキリについて説明・注意喚起を行い、発見した場合は振興局や市、JA等へ連絡するようお願いした。



坂口会長の挨拶



研修会の様子

3. クビアカツヤカミキリ産卵阻止ネット設置研修会を開催

5月29日、那賀病虫害防除対策協議会（会長：中島康晴氏、管内各関係機関で構成）はクビアカツヤカミキリ（以下クビアカ）対策の一環として、産卵阻止ネット設置研修会を開催し、21名が参加した。

クビアカの被害樹は増加傾向にあるが、夏期の一斉防除や早期発見・早期捕殺の効果により、想定よりも被害拡大は一定程度抑えられているものの、さらなる対策が求められている。

今回、研修を行った産卵阻止ネットは、果樹試験場かき・もも研究所で開発されたもので、0.3mm 目の防虫ネットを樹に巻き付けることで、物理的に産卵を防ぐ仕組み。参加者からは、「落葉後の冬季に実施するのが効率的」、「ネット幅は10cmと20cmが適しているのではないか」という意見が寄せられた。

粉河地区と桃山地区でそれぞれ研修会を開催して展示ほ場を設置し、今後は、改善点を洗い出しつつ、生産者への普及を図っていく。



ネット被覆中の様子



ネットを被覆したももの樹

4. 紀の川アグリカレッジ修了式及び開講式が開催された

5月29日、紀の川市によるイチゴ研修プログラム「紀の川アグリカレッジ」第2期生修了式及び第4期生開講式が、紀の川市役所で開催された。修了する第2期生は3名、新たに研修を開始する第4期生は3名であった。

修了式では、岸本市長から「紀の川市の農業を担うリーダーになってほしい」との激励の言葉とともに記念品が贈呈された。これに対し、第2期生からは「研修を通じて多くの方々にお世話になった。栽培技術について、まだまだ深い理解は出来ていない。受入農家に近づけるようこれからも努力していく」との言葉が述べられた。

続く開講式では、記念品贈呈後、第4期生3名がそれぞれ簡単な自己紹介を行った。

その後、報告会が開催され、第2期生は研修成果報告、第3期生は研修状況報告、第4期生は研修への意気込みをそれぞれ発表した。

今後、農業水産振興課は、アグリカレッジの講義や就農準備などのサポートを行っていく。



2期生3名



記念品贈呈

Ⅲ 伊都振興局

1. 重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】

～農業技術講習会果樹コース（かきの生理落果・品質の対策）の開催～

5月22日、農業水産振興課では、就農意欲があり基礎技術を習得したい方への技術・経営力向上のため、果樹（かき）の栽培講習会を開催し、5名が受講した。

今回は、開花後の管理として、生理落果や品質向上対策について講習会を実施した。

はじめに、津田普及指導員から、生理落果の発生要因とその防止対策、果実肥大と着色促進のための環状はく皮および新梢・樹勢管理を、続いて浅井普及指導員から病虫害防除について説明した。その後、九度山町の園地に移動し、環状はく皮処理を実践し受講者も体験した。受講者からは、かきの樹勢の見分け方や新梢管理の方法などの質問があった。

当課では、引き続き講習会（果樹）を12月まで合計5回実施し、栽培指導を行っていく。



座学の様子



現地研修の様子

2. えんどう採種ほ場の現地状況調査

5月14日、伊都地方のえんどう種子生産現場の状況確認のため、和歌山県原種育成会と県農業試験場、暖地園芸センター、県果樹園芸課、農業水産振興課、JAわかやま紀北地域本部、JAわかやま販売部の職員等で現地状況調査を行った。

管内4ヵ所のほ場を回り、生育状況を調査した。一部のほ場で湿害による生育不良が見られたものの全体的に病害が少なく順調に生育しており、つる上げは5月下旬～6月上旬に行う予定である。

当課では引き続き、関係機関と連携して採種えんどうの収量安定に向けて取り組んでいく。



ほ場調査の様子

IV 有田振興局

1. 令和7年度有田地方かんきつ類の着花調査を実施

5月8日に有田地方のかんきつ類の着花状況調査をJAわかやまありだ地域本部、農業共済組合および県関係機関の職員24名で実施した。本調査は、着花量や新梢の発生状況を達観（目視）により行うため、はじめに果樹試験場の樹を基準とし調査項目ごとに目揃えを行った。その後、地域ごとに8班に分かれ、温州みかん111園地、中晩柑類32園地の計143園地を調査した。



新梢の多い園地

温州みかんの着花指数は、極早生で11.6（過去10年平均：10.7）、早生10.0（同9.6）、普通8.9（同9.5）であり、品種、園地や樹によるバラツキが大きく、相対的にやや少ない傾向であった。中晩柑は「はっさく」で10.6（同10.3）、「清見」で8.9（同10.2）、「不知火」で10.1（同10.1）であった。また、温州みかんの満開期は平年より遅く、極早生で5月7日（平年より1日遅い）、早生で5月9日（平年より2日遅い）、普通で5月9日（平年より1日遅い）となった。これらの調査結果を関係機関で共有し、今後の栽培管理の指導に役立てていく。

2. 令和7年度田んぼの学校（有田市立糸我小学校）がスタート

有田市立糸我小学校で、糸我地区青少年育成会主催による第25回「田んぼの学校」（校長：山崎佳彦氏）がスタートした。「田んぼの学校」では児童が「総合的な学習の時間」の授業の中で田植え、稲刈りなど年間を通じて米作り・アイガモ農法の体験・実践を行う予定になっており、収穫したお米は「鴨・米・美」（カモンベイビー）として一般の方にも販売されている。



種籾を水田の一角に撒く児童

5年生児童10名は、授業の一環として12日にアイガモ卵の孵卵器への入卵、5月13日に種まき、26日に卵の生育状況を確認する検卵を実施し、山崎氏と農業水産振興課職員から、孵化に必要な条件や、受精卵の成長について説明を受けた。児童らは苗の生育が揃うよう丁寧に種もみをまき、興味深い様子で成長している卵を確認していた。6月には田植え・アイガモ放鳥を実施予定で、収穫・販売まで年間を通じて当課が学習支援を行っていく。



有精卵と無精卵の違いを説明する山崎校長

3. 有田地方生活研究グループ連絡協議会総会・研修会を開催

5月19日、有田振興局大会議室において、有田地方生活研究グループ連絡協議会（会長：南村尚美氏）が総会及び研修会を開催し、会員19名が出席した。

議案は全て原案どおり承認されるとともに、役員改選が行われ、新会長に宮地スミ子氏が就任した。

総会後の研修会では、県果樹試験場うめ研究所の田嶋主任研究員から、「梅の健康パワーと加工法豆知識」と題して講演があった。会員の中には自家消費用に梅干しや梅酒、梅シロップなど梅の加工品を作っている方も多く、梅に多く含まれる機能性成分について改めて学び、各々の自家での加工法について講師と議論を交わしながら、和気あいあいと研修会が行われた。会員からは「今回の研修会で学んだことを生かし、改めて家庭やグループ活動で梅を使った料理や加工品作りを実践してみたいと思った」という感想が聞かれた。



総会の開催風景



講師を囲み、梅干し加工法について
議論を交わす会員

V 日高振興局

1. 日高果樹技術者協議会が令和7年産かんきつ類着花状況調査を実施

農業水産振興課、JAわかやま紀州地域本部等で構成する日高果樹技術者協議会（会長：柏木雄人氏）は5月2日に令和7年産のかんきつ類の着花状況調査を22名の関係者で実施した。

温州みかんをはじめ八朔、甘夏などの中晩柑類も含め、管内の149カ所を対象として、着花状況を調査した結果、着花数は平年並み又はやや多い傾向であった。

また、満開期は、総じて平年よりも1～2日程度遅く、着花指数は、平年値を10とすると温州みかんでは、極早生で「11.0」、早生で「9.7」、八朔は「10.6」、甘夏は「10.4」、不知火は「10.8」であり、作柄は平年並み又はやや多いと予想された。

天候や病害虫の発生状況により落果が助長されることもあることから関係機関と情報を共有しながら今後の動向を注視していく。



調査の様子

2. 日高地方クビアカツヤカミキリ連絡会議を開催

JAわかやま紀州地域本部、管内各市町、果樹試験場うめ研究所、日高振興局農業水産振興課等で構成する日高地方クビアカツヤカミキリ連絡会議を5月15日にJAわかやま紀州地域本部がいなポートで開催し、27名の出席があった。

会議では、クビアカツヤカミキリのこれまでの被害状況と令和6年度の調査実績の報告、令和7年度調査実施方針案の検討等を行った。また、防除対策についてJAや県から各種事業の説明があり、情報共有した。

被害の拡大防止を図るため、引き続きチラシの配布等による地域住民への啓発を行うとともに、関係機関と連携して防除対策に取り組んでいく。



会議の様子

3. 日高地方花き連合会が花育活動を実施

5月16日、日高地方花き連合会（会長：中尾貴宏氏）は、子どもたちに日高地方が花き産地であることや、花に親しみを持ってもらうことを目的に、今年も「花育活動」を実施した。平成21年から実施しており、今回で17回目となった。

当日は、日高地方農業士会の協力を得て、管内全小学校及び特別支援学校（計25校）の5、6年生のクラスを対象に、管内で生産された切り花を用いて作成した花束と日高地方の花きを紹介したリーフレットを配布した。

また、「ミニ花束づくり体験」の希望のあった5校では、会員や農業士の指導のもと、児童が花束づくりに挑戦した。児童はそれぞれ好きな花を選んで花束を作り、家族にプレゼントするのを楽しみにしていた。



作った花束を持って記念撮影
（みなべ町立岩代小学校）



ミニ花束作り体験
（日高川町立川辺西小学校）

VI 西牟婁振興局

1. 上富田町都市と農村の交流事業実行委員会が「梅取り体験」を実施

上富田町の基幹作物であるうめとみかんの消費拡大を図るため、上富田町、JAわかやま及び西牟婁振興局農業水産振興課を構成メンバーとして、都市と農村の交流事業実行委員会（委員長：谷本雅司氏）を設置し、毎年都市部の市場関係者や消費者を招待してうめやみかんの収穫体験を実施している。

5月30日、JAわかやま富田川営農経済センターにおいて、上富田町奥田町長、JAわかやま紀南地域本部笠松副部長及び西牟婁振興局農林水産振興部福居副部長による歓迎挨拶の後、(株)熊谷青果市場及びコープ関係者15名がうめの収穫体験を行った。

収穫体験に先立ち、農業水産振興課の行森普及指導員から管内のうめの栽培概要や品種、生育状況及び収穫の方法について説明した。

参加者は、今年の収穫時期・収量の見通しについての意見の他「樹のどこについている果実を取れば良いのか」、「どんな果実が取り頃なのか」等の質問をしながら籠いっぱい果実を収穫した。翌5月31日にJAわかやまの直売所である紀菜柑において、梅ジュースに加工して持ち帰った。

なお、みかん狩り体験は9月下旬に神戸市方面の消費者40人を招待して開催する予定である。



栽培概要の説明

2. クビアカツヤカミキリ発生状況調査を実施

うめ・すもも・もも・さくらなどバラ科の植物を加害する特定外来生物クビアカツヤカミキリの被害が令和5年5月に紀中地域でも確認され、今年度も紀中地域で被害地域の拡大が確認されており、当地域への侵入に対してより一層警戒を強めている。

西牟婁地方クビアカツヤカミキリ連絡会議（事務局：農業水産振興課）において、5月13～22日にかけてのべ60名の参加者のもと、うめ81園地（810本）、すもも20園地（200本）、さくら26地点（980本）の発生状況調査を行った（うめは西牟婁果樹技術者協議会と連携）。また、紀中地域の被害発生地に近い田辺市龍神村での調査も昨年に引き続き実施した。調査の結果、アリやコスカシバのフラスがあったもののクビアカツヤカミキリの被害は確認されなかった。今後は、広報誌等への掲載やチラシの配布による地域住民への啓発を継続するとともに、管内で被害が発生した場合の調査方法や調査地点等について関係機関と協議していく。



調査の様子（さくら）

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 令和7年産かんきつ類の着花状況調査結果

農業水産振興課は5月1日、12日、14日にJA、太地町役場、各生産団体、県関係機関と協力し、東牟婁地域のかんきつ類の着花状況調査を実施した。今回はぽんかん12園地、ゆず29園地、じゃばら8園地の計49園地の着花数や新梢の発生程度を調査した。

調査の結果、ぽんかんの着花数は平年並みで、昨年よりも多く、ゆずにおいては平年、昨年よりも少なく、じゃばらにおいては平年よりやや多く、昨年並みであった。

また、満開期についてはぽんかんが平年よりも2日程度早く、昨年と同程度、ゆずは平年よりも2日程度早く、昨年よりも2日程度遅い、じゃばらについては平年よりも3日程度早く、昨年と同程度という結果となった。

ほ場ごとにばらつきがあり、着花数が少ない園地が確認されたことから、収量を確保できるよう、今後の栽培管理作業の指導に調査結果を役立てる。

調査状況



ぽんかん



ゆず



じゃばら

2. 古座川ゆず平井の里 第21回総会の開催

5月24日、古座川町平井区民館にて、古座川ゆず平井の里（代表理事：倉岡有美氏）の第21回総会が開催された。倉岡代表の挨拶と大屋町長、宇田紀ノ川農協組合長の祝辞の後、令和6年度事業および会計、令和7年度事業および予算の議案等が承認された。また、倉岡代表から古座川ゆず平井の里の創立20年の歩みと、今後の取り組みについて報告があった。

農業水産振興課では収穫目標達成にむけた栽培管理、改植の指導を実施していく。



古座川ゆず平井の里創立20年の歩みについて報告

Ⅷ 農林大学校

1. 刈払機取扱作業安全衛生教育を実施

5月20日に1年生13人、社会人課程受講生1人を対象に刈払機取扱作業安全衛生教育を実施した。

農作業において雑草対策は重要な作業の一つであり、しかも農業者への負担も大きい。刈払機は草刈作業に多く使用されているが、転倒、刈刃の跳ね返り、刃に飛ばされた物により、作業員本人や周囲の人の負傷など非常に危険な作業となる。また、労働環境により熱中症や振動障害等の危険性も考えられる。

受講者は、安全教育の目的である作業中の事故防止・刈払機の正しい使用法・適切な整備点検等について熱心に受講していた。

特に、刈刃による事故が発生した場合、重篤なケガにつながるということを改めて確認できた。



座学の様子



実機を使った講習

2. 東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会に参加

5月29～30日にかけて、岐阜県で行われたスポーツ大会に参加した。

和歌山県農林大学校は、卓球、バドミントン、バレーボールの3種目に出場し、卓球ダブルスが優勝、バドミントンは団体が3位、シングルスが2位と健闘した。

また、試合開始前や試合終了後は、他府県の農業大学校生と混合チームで練習や交流試合を行い、連絡先を交換するなど交流を深めていた。



試合中の卓球男子ダブルス



和農大集合写真

IX 農林大学校就農支援センター

1. 令和7年度社会人課程および新規就農者実践研修がスタート

5月7日、就農支援センターにおいて社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）、および新規就農者実践研修がスタートし、県内外から10名（社会人課程9名、新規就農者実践研修1名）が受講することとなった。開講式では、本センター黒沼所長から「受講生一人ひとり、現在の人生における立ち位置を確認してほしい。研修後のライフプランをしっかりと組み立ててください。」との挨拶があり、その後受講生の自己紹介が行われ、一人ひとりから研修にかける思いや将来の展望などが語られた。

社会人課程では来年2月6日までの約9ヶ月間、新規就農者実践研修では来年3月6日までの約10ヶ月間（1,200時間）、受講生たちは講義と実習、及び農家研修などにより、実践的な農業技術や農業経営を幅広く学ぶことで、将来の農業関係への就職や就農を目指す。



開講式



果樹の実習

2. 令和7年度技術修得研修（第1班）開講

5月12日、技術修得研修（第1班）の開講式を開催した。今年度は、県内外から11名の研修生が参加し、5月～9月の5ヶ月間（全25日間）にわたり講義と実習を通じて農業の基礎的な知識や技術を学び、就農に必要な実践力を身につけていく。初日は開講式に続き、黒沼所長から『農業を始めるにあたって』と題し講義を行った。午後からは、ミニトマトの収穫、選果、調整やスイートコーンの播種の実習を行った。



技術修得研修の開講式



ミニトマト出荷調整実習

3. 令和7年度ウイークエンド農業塾農業入門コース(第1班)開講

5月17日、週末を利用して農業の初歩的な知識や技術を学ぶウイークエンド農業塾農業入門コース(第1班)が開講し、県内外から15名が参加した。開講式では、黒沼所長が「充実した研修にしてほしい」と挨拶した。研修生からは自己紹介や「美味しい果物や野菜を作りたい」、「農業の基礎を学びたい」などの抱負が語られた。

その後、午前中は「和歌山県農業の概要」や「農機具の構造とメンテナンス」の講義を行い、午後は刈払い機や動力噴霧器等農業機械の取り扱い方、メンテナンスの方法について実習した。

翌5月18日は、午前中「野菜栽培の基礎、スイートコーンの栽培」、「土壌と肥料」の講義を行い、午後はミニトマトの収穫出荷調整とスイートコーンの播種について実習した。

今後、8月3日まで計10日間の日程で果樹、野菜、花きの栽培方法など基礎知識を学ぶ。



開講式



実習：刈払い機の説明

X 経営支援課

1. 和歌山県4Hクラブ連絡協議会が令和7年度総会及び農村 青少年技術交換大会を開催

5月9日、和歌山県4Hクラブ連絡協議会は令和7年度総会を開催し、クラブ員18名が出席した。

総会では、執行部から提案された全ての議案が承認され、会長に和歌山県4Hクラブ連絡協議会の山下美都史氏が就任した。

総会后、公益財団法人和歌山県農業公社との共催で農村青少年技術交換大会が開催された。技術交換大会はペーパーテスト35問と実物鑑定15問からなり、クラブ員らは様々な分野にわたる問題に苦戦しながらも、日頃培った知識をもとに解答していた。

テストの後、昨年度に全国農業青年交換大会に派遣されたクラブ員から大会の内容について発表が行われた。また、当課の岡本革新支援専門員から、農作業安全に関する研修を行った。

採点の結果、成績上位者の中から、和歌山県4Hクラブ連絡協議会の船橋遼司氏と西牟婁4Hクラブ連絡協議会の山崎昂幸氏が埼玉県で開催予定の全国農業青年交換大会に派遣されることとなった。



総会での新旧役員からの挨拶



実物鑑定を行うクラブ員

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489